|  |  |
| --- | --- |
| 整理番号 |  |

**2018年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」申請書（大学院・学部）**

(※文部科学省のホームページから様式をダウンロードして、作成してください)

【１．申請大学の概要】

|  |  |
| --- | --- |
| ①設置形態 | １　国立　　　２　公立　　　３　私立 |
| ②大学名 学長名 | （日本語）（英　語） | （大学番号） |
| （学長名） |
| ③所在地 | 〒 |

【２．プログラムの概略】

|  |  |
| --- | --- |
| ④プログラムの名称 | （日本語）（英　語） |
| ⑤プログラム要旨 |  |
| ⑥実施研究科・専攻　実施学部・学科 |  　　　研究科・学部　　　　　　　　　　専攻・学科 |
| （所在地）〒 |
| ⑦連携大学・研究科等　連携大学・学部等 | 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 |
| ⑧プログラム教育課程 |  |
| ⑨使用言語 | ①英語のみ　②英語及び日本語　　③日本語のみ　④その他（　　　） |
| ⑩募集分野 | ①成長戦略　②工学　 ③医療 　④農学 　⑤社会科学 　⑥その他 |
| ⑪審査区分 | ①総合系　 ②人文社会系　 ③理工系　 ④生物系 |
| ⑫研究分野 |  |
| ⑬受入時期 | ①2019年4月　　②2019年9月　　③2019年10月 |
| ⑭受入予定学生数 | プログラム入学定員：　　人（うち優先配置希望枠数(国費)： 人　私費留学生： 人　日本人学生： 人） |
| ⑮学業成績基準 | ①学業成績係数2.3以上　　②その他（　　　　　　　　　　　　　　　） |
| ⑯担当教員数 | 合計 人 （うち専任：　　人、兼担：　　人、非常勤：　　人） |
| 【３．本プログラム連絡先】 |
| ⑰プログラムディレクター名 | 所属部局・職名 |
| 氏名 |
| ⑱事務担当者連絡先 | 所属部局・職名 |  |
| 担当者氏名 |  | e-mailｱﾄﾞﾚｽ |  |
| 電話番号 |  |
| ※ここに記載のあるe-mailｱﾄﾞﾚｽに合否等の連絡をします。 |

【４．プログラムの詳細】

【４】は９ページ以内に収めて下さい。

|  |
| --- |
| **(１) プログラムの目的、教育・研究内容**プログラムの目的、教育・研究内容について下記の観点を踏まえて記載してください。○　プログラムの趣旨・目的・養成する人材像と具体的な取組とに整合性があるか。○　大学の強みを活用した独自性あるプログラムであり、教育・研究内容が優れているか。○　対象としている地域・分野を定めている場合、国・地域、留学生のニーズを把握したプログラムであるか。○　日本人学生との共修の仕組みを取り入れる等、実施主体のグローバル化に資するプログラムであるか。**※本申請書の直後に、カリキュラム（Ａ４タテ・様式自由・両面印刷）を添付してください。** |
| 「世界の成長を取り込むための外国人留学生の受入れ戦略」(平成25年12月18日)で整理されている重点地域（９地域）のうち、申請プログラムで外国人留学生の獲得が最も期待される地域を１つ選んでください。特にない場合は「特になし」を選んでください。（該当する選択肢の□を■に置き換えてください）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| □ | ①東南アジア（ASEAN） | □ | ④中東 | □ | ⑦南米 |  |  |
| □ | ②ロシア及びCIS諸国 | □ | ⑤南西アジア | □ | ⑧米国 |  |  |
| □ | ③アフリカ | □ | ⑥東アジア | □ | ⑨中東欧 | □ | ⓪特になし |
| 選択した地域からの受入国費留学生数の目標値 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
| 人 | 人 | 人 |

 |
| **(２) 留学生の受入れ及び在学中を通した学習・研究の質の確保**留学生獲得・選抜のための戦略的方針・仕組み、及び受け入れた留学生の学習・研究の質を維持・向上させるための方策について、下記の観点を踏まえて記載してください。○　優秀な留学生を獲得するための方針・仕組み（募集戦略・方法、入試内容等）が構築されているか。○　私費留学生等を確実に獲得できる体制となっているか（留学生獲得戦略の策定、協定校受入れ計画等）○　標準修業年限内に学位を修得させるための効果的な指導体制が取られているか。○　在学中を通して優秀な留学生の学力・研究力を維持・向上させるための方針・仕組み（成績管理等）はあるか。 |
| ●大学及び本申請プログラムの実施学部・研究科等で締結している大学等間の交流協定の数

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 交流協定の締結数 | 大学 | 件 |

●2015年度以降の協定締結状況（協定数が多い場合は各年度につき交流実績の多い３件を記入すること）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 締結年度 | 国・地域 | 大学名 | 協定内容 |
| 2015年度 |  |  |  |
| 2016年度 |  |  |  |
| 2017年度 |  |  |  |

 |
| **(３) 実施体制**プログラムの実施体制及び留学生に対する学習・生活支援等の各種の支援体制について、下記の観点を踏まえて記載してください。○　留学生の募集・採用から就職・フォローアップまでの支援を実効的に行うことが出来る体制が整備されているか。○　留学生に対して修了後の進路に関する将来ビジョンを示し、そのためのキャリア教育、支援体制が整備されているか。○　日本での生活等に関して留学生に対する支援体制が整備されているか。○　プログラムの実施、評価等に関する体制が整備されているか。 |
|  |
| **(４) プログラムの実現可能性・持続可能性**プログラムの実現可能性・持続可能性について、下記の観点を踏まえて記載してください。○　外国人留学生の受入れ実績や既設コース等の実施成果を踏まえた、実現可能性・持続可能性の高い計画が構築されているか。○　優先配置期間終了後も継続してプログラムを実施できる体制が計画されているか。○　過去に「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に採択されたプログラムについては、過去の実施による成果があがっているか。また、プログラムの見直し、改善が図られており、今後さらなる充実が見込まれる計画であるか。 |
| ●留学生の在学状況（各年5月1日時点）　申請プログラムが大学院の場合は大学の大学院全体の数、学部の場合は大学の学部全体の数をそれぞれ記入すること。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 |
| 国費留学生 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 私費留学生 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 除籍・退学者数(2015～2017年) | 人 | 除籍・退学の主な理由 |  |

 |
| ●既設コース（今回申請のプログラムの先行プログラムとして過去に採択された特別プログラム）について

|  |  |
| --- | --- |
| 採択年度・プログラムの名称及び番号(5ｹﾀ) |  |

●既設コースの留学生の受入れ状況

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年4月 |
| ①応募人数（国費） | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| ②応募人数（私費） | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| ③応募人数（その他） | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 入学人数（国費・私費・その他の合計数） | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |

●既設コースの卒業者・修了者総数、修了者の修了時学業成績係数

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 開設年度 | 年 　月 | 修了時学業成績係数 | ①2.3未満 | ②2.3～2.7未満 | ③2.7以上 |
| 卒業者・修了者総数 |  | 人 | 人 | 人 |

●既設コースの成果（留学生の獲得状況、在籍者の学業成績、修了者の主な進路等）

|  |
| --- |
|  |

●既設コースと今回申請のプログラムの違い（※見直しや改善を図った点を記載してください。）

|  |  |
| --- | --- |
| 既設コース | 今回申請のプログラム |
|  |  |

 |